

SILK NETWORK

シルク通信 No.2

シルクロード・ネットワーク



シルクロード・
ネットワーク協議会
2022年3月発行



しなの鉄道大屋駅にて2021RAC 研修ツアー記念写真。2021年11月13日（撮影／田中光一）

シルクと鉄道と横浜と

今号の表紙を飾る皆さんの笑顔満載のお写真は、しなの鉄道大屋駅前でのひとコマである。明治29年(1896)開業のこの駅は、信越本線当時のままの形を残す歴史の木造駅舎である。この駅の成り立ちが興味深い。それと言うのも市民の明治政府への請願によって設置されたからだ。しかも、その市民とは大屋駅界隈の北信地方の皆さんではない。同じ信州でも南に位置する諏訪地方の岡谷等の絹産業に携わる市民である。理由は、諏訪地方にまだ鉄道が開業しておらず、横浜への生糸運搬に苦勞していたからだ。そこで、信越本線に白羽の矢が立ち、上田駅と田中駅の間は大屋駅を設けてもらった。しかし、諏訪地方から最短の大屋駅への途中には和田峠があり、生糸を積んだ馬車で超えることは難儀だった。それでも鉄道による輸送はありがたかったに違いない。諏訪地方に甲府方面から中央本線が延伸したのは明治38年のこと、約10年間大屋駅詣でが続いた。

このように鉄道が生糸輸送に大きな役割を果たしたことは、知られるところであり、鉄道の敷設は、明治政府の肝いり政策でもあった。信越本線はその最たるもので、まさしく絹の道

公益社団法人横浜歴史資産調査会 常務理事
米山淳一（シルクロード・ネットワーク事務局長）

として横浜へ通じていたのである。

日本海側の直江津から妙高を越え、長野、上田、小諸、信濃追分、杓掛（現中軽井沢）そして軽井沢。その先で我が国の最急こう配の難所、碓氷峠を下る。途中の碓氷第三アーチ橋が難工事の末、竣工したのは明治26年(1893)、遂に信越本線が全通したのである。その結果、日本海側の越前、越中、越後そして信州の生糸や蚕種等が容易に横浜に運ばれるようになった。

鉄道なくして生糸の輸送は語れない。生糸を積んだ貨物列車は、現在の湘南新宿ラインのルートから分かれ、今の新川崎辺りから高島線に入り大岡川を渡り、生糸検査場の倉庫（旧帝産倉庫）に運ばれて検査を待った。かつての路線図を見ると倉庫の脇にピタリと鉄路が張り付いているのが分かる。まさにレイルロードはシルクロード。北仲地区の再開発で当時の面影を残すのはそれらしく造られた建物で、鉄道の痕跡は無い。生糸の生産で横浜の発展を支えてくれた歴史の町や村とそれらを結んでいた鉄道の恩恵を歴史的資産として語り継いで行きたい。



『信州 シルクロードは レイルロード』

— 絹文化の最上流から道筋を辿る —

中村 武 NPO法人 街・建築・文化再生集団 (略称 RAC)

RACは、設立以来毎年度開催している研究集会在新型コロナウイルス感染症の蔓延で思うように企画が出来ず、開催の可能性を探っていたところ、横浜歴史資産調査会から「しなの鉄道百年駅舎信濃追分駅」の保存活動について情報を頂きました。信濃追分駅は旧信越本線の駅舎で、沿線は、かつて信州の蚕種や繭、生糸の輸送で重要な役割を担っていた鉄道のシルクロードです。

周辺では数多くの絹文化の源流を見ることが出来ます。そこで、私たちは研究集会の代替案として、横浜歴史資産調査会と協同で長野県の東信地域を中心とした鉄道シルクロードを辿る研修ツアーを計画、2021年11月13日、14日に感染予防対策を行い開催しました。

13日(土)、研修ツアーは集合場所を信濃追分駅とし、杉崎行恭さん(信濃追分駅舎あたら会)の解説による駅舎見学からスタート。後半では同じく「しなの鉄道大屋駅」も見学、半世紀以上前、絹産業で賑やかだった頃の鉄道を想像しながらの研修でした。

次に向かった小諸市の氷風穴では、「氷風穴の里保存会」の皆



▲明治38年に建てられた旧常田館にある国内唯一の木造5階建て繭倉。▶上塩尻の集落風景



13日 信濃追分駅見学



13日 氷風穴見学



14日 齋館松田家見学

様総出で解説を頂きました。現在も使用されている数少ない風穴で、明治のはじめ頃から蚕種の貯蔵が行われていたようです。電気冷蔵庫が出現するまでの間でしたが、風穴のおかげで、春1回の養蚕を年に数回出来るようになり、養蚕製糸の拡大発展に大きな役目を果たしました。

次の東御市海野宿は北国街道の宿場で、蚕種製造で栄えた集落です。国重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。ここでは山中千花さんにご案内頂き、海野宿の現在とこれからの集落での取り組みについて貴重なお話を頂きました。この後前述した大屋駅を経て、宿泊所の千曲市八幡温泉うづらやに到着。情報交換会では、参加者の今井文子さんから提案があり、2022年度の研究集会在茨城県結城市で開催することが決定されました。

14日(日)は、武水別神社と齋館松田家の見学から始まり、解説は矢島宏雄さん(千曲市教育委員会/名勝娯楽部代表)です。齋館松田家は長野県宝として復原整備の後、火災で焼失し現在修復中です。西沢嘉雄さん(N建築設計事務所)に修復工事の解説頂きましたが、西沢さんは修復設計を担当されていました。次の見学地は上田市上塩尻集落で、集落では佐藤家住宅(国登録文化財)と藤本蚕業歴史館を見学、佐藤家当主佐藤修一さんと中澤徳士さん(上田市教育委員会)に解説を頂き、蚕種製造の歴史を学びました。

国重文「笠原工業旧常田館製糸場施設」の見学は駆け足になっ



14日 藤本蚕業資料館見学

てしまいました。施設は笠原工業(株)の委託でNPO法人絹の文化・蚕都常田館が管理、公開を行っています。巨大な倉庫群は圧巻でした。

最後の見学は別所温泉です。上田電鉄別所線で車窓を楽しみながらの行程でした。別所温泉にはかつて別所風穴もあり、蚕種製造に貢献した実業家倉澤運平もいました。北向観音堂には蘭の奉納額も有り、温泉は絹産業で大いに栄えたと思います。温泉地内は自由見学となり、その後上田駅に帰着、解散となりました。

今回の研修ツアーは欲張りすぎて、駆け足の研修となり、参加の皆様には行き届かない研修ツアーとなったかと思えます。最後になりましたが、ご参加の御礼とともに、お詫び申し上げます。2022年度研究集会は、茨城県結城市で開催予定です。詳細が決まり次第お知らせ致しますので、これに懲りず、是非、ご参加下さい。



14日 旧常田館製糸場見学



14日 別所温泉駅

「シルクとしなの鉄道」

今回の研修ツアーがスタートした信濃追分駅は、軽井沢駅からしなの鉄道で二駅目、私鉄の中で最も標高が高い955メートルの高原にある駅だ。ホームから浅間山の姿が正面に望める高原駅で、もうすぐ開業百年になる木造駅舎が出迎えてくれる。平屋建てのシンプルな駅舎は、夜中も貨物列車が往来し、駅員さんの宿直もあった国鉄時代の駅の面影を残す希少な建物だ。

高崎、軽井沢から日本海側の直江津、新潟を結ぶ鉄道線は国鉄時代、信越本線とよばれた。なかでも高崎―直江津間は明治政府が建設した官営鉄道で、長野県ではじめて汽車が走った歴史ある区間だ。山、川と自然豊かな信州の地形を克服し開業した信越本線は、新潟、信州と東京、横浜を結ぶ大動脈となった。

養蚕、製糸業が盛んだった信州の産物はこの鉄道によって、東京、横浜に運ばれ、海外に輸出され外貨を稼いだ歴史を振り返ると、信越本線が日本の近代化になくはならない存在だったことを知る。そんな歴史ある信越本線も、時代の流れとともに大きく変貌した。1997年、長野行新幹線(現・北陸新幹線)が開業するにあたり、JR信越本線の軽井沢―篠ノ井間は第3セクターのしなの鉄道に引き継がれ、2015年新幹線がさらに金沢まで延伸し、長野―妙高高原間もしなの鉄道に移管された。

信越本線は、明治21年(1888)に直江津―長野―軽井沢間、明治26年に軽井沢―横川間が開業し、直江津―高崎間が全通。すでに開業していた上野―高崎間と連絡して、東京と長野・直江津が鉄道で結ばれた。

しなの鉄道の駅をたどってみよう。

今回見学した氷風穴のある小諸市を代表する小諸駅。小諸には、明治初期より製糸場が創業し、養蚕農家も増え、風穴を利用した蚕種業も栄えていた。まだ篠ノ井線も中央線もなかった時代に、松本、

諏訪、伊那谷、木曾谷の信州各地でおこなわれていた養蚕・製糸業の原料、製品の積み出しに利用されたのは田中駅だったが、和田峠を越えて駅を利用する南信地方の人たち、峠のふもとの集積地の人々が、より近く利便性の高い大屋に駅をつくらせたいと政府に請願し、建設されたのが大屋駅だ。上田は江戸時代後期からすでに蚕種の一大産地として、南信、北信からの集積地として栄えていた。横浜港が開港し、日本からはじめて輸出された生糸や蚕種は上田で産出されたものさうだ。上田駅近くの旧常田館製糸場はじめ、上田駅―西上田駅間には「まゆの里」の名残をとどめる家並みに多く出会える。北国街道坂木宿のあった坂城駅周辺も養蚕業が盛んで大きな養蚕農家の建物や桑畑のなごりがみられる。屋代駅はかつて長野電鉄屋代線が乗り入れている、松代を經由して本線の須坂と結んでいた。北信に乗り入れた鉄道の歴史は、この屋代線が古く、北信の養蚕・製糸製品は、この鉄道で運ばれた。

こうして開業時からあるしなの鉄道沿線の駅をみていると、地域の宝のひとつであるシルク文化と鉄道がいかに深いかかわりがあったかを実感することができる。これらのシルク遺産は、各駅から徒歩でたずねられるところも多い。しなの鉄道を利用したシルク観光は今後、沿線観光テーマとして大いに期待できると思われる。

(河合桃子 信濃追分駅舎・あたら会)



信濃追分駅下りホームより

旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室 保存・修理の取組みについて

幕田 淳子 (日野市ふるさと文化財課)

▶旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室

旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室は、昭和7年に養蚕研究施設として建設された日野市内に唯一現存する蚕室です。鉄筋コンクリート造と木造の混構造の特長をもつ第一蚕室は、平成29年に日野市初の国登録有形文化財として登録されました。平成28年度に策定した保存活用計画に基づき、令和元年5月から令和2年10月にかけて保存修理工事を実施、建物の健全化と安全に公開するための整備を進めました。

保存修理工事を通して新たに発見された第一蚕室の魅力を発信する活動として、日野市ふるさと文化財課では令和3年度特別展「川風のおくりもの 日野に誕生した桑と蚕の研究所物語」を開催し、第一蚕室の一般公開、現地説明会を実施しました。建物内5つの蚕室・桑貯蔵室・事務室や蚕室床下の火炉、修理工事中に保存した建築部材を公開し、今まであまり知られていなかった建物内部についてご紹介いたしました。また、保存修理工事の様子「よみがえる!! 旧日野桑園第一蚕室～保存修理工事の記録」をYouTubeにて公開中ですので、動画も併せてご覧ください。

今年で築90年を迎える第一蚕室、新型コロナウイルス感染症の影響により常時公開や活用についての取り組みが難しい現状ですが、今後も文化財としての魅力を伝えるとともに、建物の利活用に向けて検討を進めてまいります。第一蚕室の公開の際にはぜひ、日野にお越し頂き、ご覧になってください。



▲令和3年度特別展「川風のおくりもの 日野に誕生した桑と蚕の研究所物語」蚕室内展示の様子

蚕種(蚕の卵)から織物まで 純福島産へのこだわり

鈴木美佐子 (福島市民家園手織りの会)

信達蚕糸業地帯として江戸時代から名を馳せた信達地方とは、福島県中通り北部の伊達、保原、梁川、霊山、飯坂、飯野、川俣に当たります。これらエリアにはかつて福島県の主要産業として蚕糸業が繁栄し、本県はもとより、日本の経済活動に大きな発展をもたらしました。

福島には今もなお、全国でも貴重な蚕種(蚕の卵)から、先祖から受け継いだ桑畑栽培した桑で蚕を育て、糸を紡ぎ絹製品を織るといった文化と技術を継承する強いこだわりとスピリットをもった生産者や工人達が存在しております。

私たちは織物経験者が集まり地域の織物の歴史と文化継承を目的に、平成25年に佐藤和子さんを中心に会を発足しました。

慶応2年の手引き書をもとに日々勉強と研究を重ね、全国でも貴重な弓棚式高機(ゆみだなしきたかばた)でハツ橋織りなど昔から伝わる組織織りの復元にも取り組んでおります。元国立民族学博物館の吉本忍教授によるとこの弓棚式高機を実際に動かして織っているのは全国でも此処だけだそうです。

私たちは一人でも多くの方々に伝えるべく織物体験や展示講演など様々な啓蒙活動をしております。終わりのない奥深い織物を真剣に学び実践しながら、最近では継承の為には収入源となる商品も必須であると商品製作にも取り組み、地域の織物の歴史と文化を一人でも多くの方々に伝えるべく織物体験や展示 講演など様々な啓蒙活動をしております。

平均年齢は高いですが拘りと向上心は素晴らしいメンバーです! コロナ禍が落ち着きましたら是非全国の方々においで頂きたいと存じます。



弓棚式高機



織物

生糸からKIITOへ

デザイン・クリエイティブセンター神戸(通称KIITO・旧神戸生糸検査所)

浜田有司 (神戸市役所)

デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)は、2008年に、神戸市がユネスコのデザイン都市に認定されたことを契機に、その拠点として2012年8月に開館しました。

この建物は、明治政府が外貨獲得の手段として推し進めた生糸輸出の際に品質検査を行う施設として1927年に現旧館が建設され、続いて1932年に東側に新館が増築されました。旧神戸生糸検査所は、旧横浜生糸検査所が改築された今では、当時の姿を大きく変えずに現存する唯一の生糸検査所庁舎として貴重な建物です。

もとの生糸検査所がKIITOに生まれ変わった経緯は次のようなものでした。産業としての生糸輸出がしだいに衰退していった1970年代、生糸検査所としての役割も終わりを迎え、1991年には農林水産省の消費技術センターに改称されました。やがて国の行政改革の一環で施設の移転と土地の売却方針が決まりましたが、時を合わせるように神戸市がユネスコの認定を受けたことから、建物の保存活用の機運が高まり、2009年に神戸市が買い取ってデザイン・クリエイティブセンターとして再活用されることとなりました。

“デザインを通じて、市民・事業者・クリエイターがつながり、新たな価値を生み出すための創造”というコンセプトのもと、オリジナルの意匠や空間が保存された地上4階建ての建物内では、デザインやアートにまつわる展示、イベントなどを開催するほか、ホール、ギャラリー、オフィスが入居するクリエイティブラボなどがあります。

★シルクロード・ネットワーク神戸フォーラムの会場はKIITOを予定しています。



KIITO外観



旧館2階ギャラリー

■シルク通信 No.2 2022年3月発行

■編集・発行/シルクロード・ネットワーク協議会 代表幹事団体・公益社団法人横浜歴史資産調査会

■事務局/〒231-0012 横浜市中区相生町3-61 泰生ビル405

TEL・FAX/045-651-1730 MAIL/yh-info@yokohama-heritage.or.jp

ホームページ <http://www.yokohama-heritage.or.jp/>